

令和5年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

成果共有会 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備”に取り組む	✓
昨年度から引き続き“環境整備”に取り組む	

活動団体名：西川町地域資源活用イノベーション推進協議会

活動地域：山形県西川町

活動におけるテーマ

『西川町の地域資源活用にイノベーションを起こす！！』

活動団体および活動地域の紹介

● 活動地域：山形県西川町

- ・山形県の中央にあり、出羽三山の一角をなす月山（標高1984m）の麓の約5,000人の町。
- ・4月にスキー場がオープンし、自然を活かしたカヌー・登山・苔・サウナが楽しめる
- ・自然に生育する山菜、筍などで、江戸時代から参拝客を楽しませている。



- 西川町ホームページ (<http://www.town.nishikawa.yamagata.jp/>)
- 西川町ファンクラブサイト (<https://fanclub.town.nishikawa.yamagata.jp/>)
西川町の最新情報がGETできます！！

バイオマス

雪活用と廃プラ

西川町地域循環共生圏 PF 事業

木質バイオマス事業

無駄のない資源の活用とビジネス拡大

- ・地域資源を活かしたバイオマス発電
- ・熱を利用したきのこと栽培、食品加工
- ・地域森林活用・薪ストーブ推奨
 - 本道寺地区【運営予定地】
 - NTT 東日本
 - 株式会社やまがた新電力
 - 西村山地区森林組合
 - 大車興業



非常時等
避難所への電力供給

雪活用

地域資源の有効活用

- ・雪室事業
 - 金子農園
 - ツキノワ合同会社
- ・豪雪サウナ（冬の観光）
 - 月山朝日観光協会
 - ワイルドジャーニー

人口減少

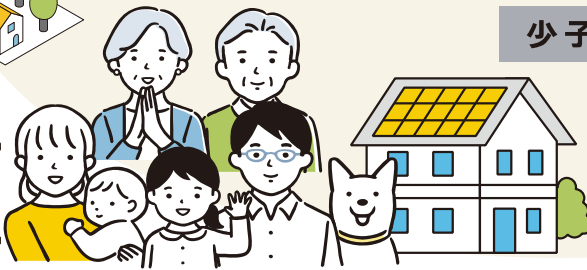
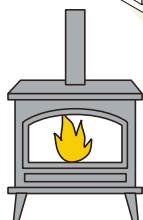
地域課題

豪雪

少子高齢化

荒廃森林

冬の収入減



町民

廃棄資源を有効活用した交流人口拡大

- ・ペットボトルキャップを重油化し観光施設にて利用
- ・事業可能性調査
 - 六洋電気株式会社
 - 株式会社荘内銀行
- ・資源回収
 - 西川町総合開発株式会社
 - 株式会社チェリーランドさがえ
 - 西川小、中学校
 - 道の駅連携

廃プラリユース事業



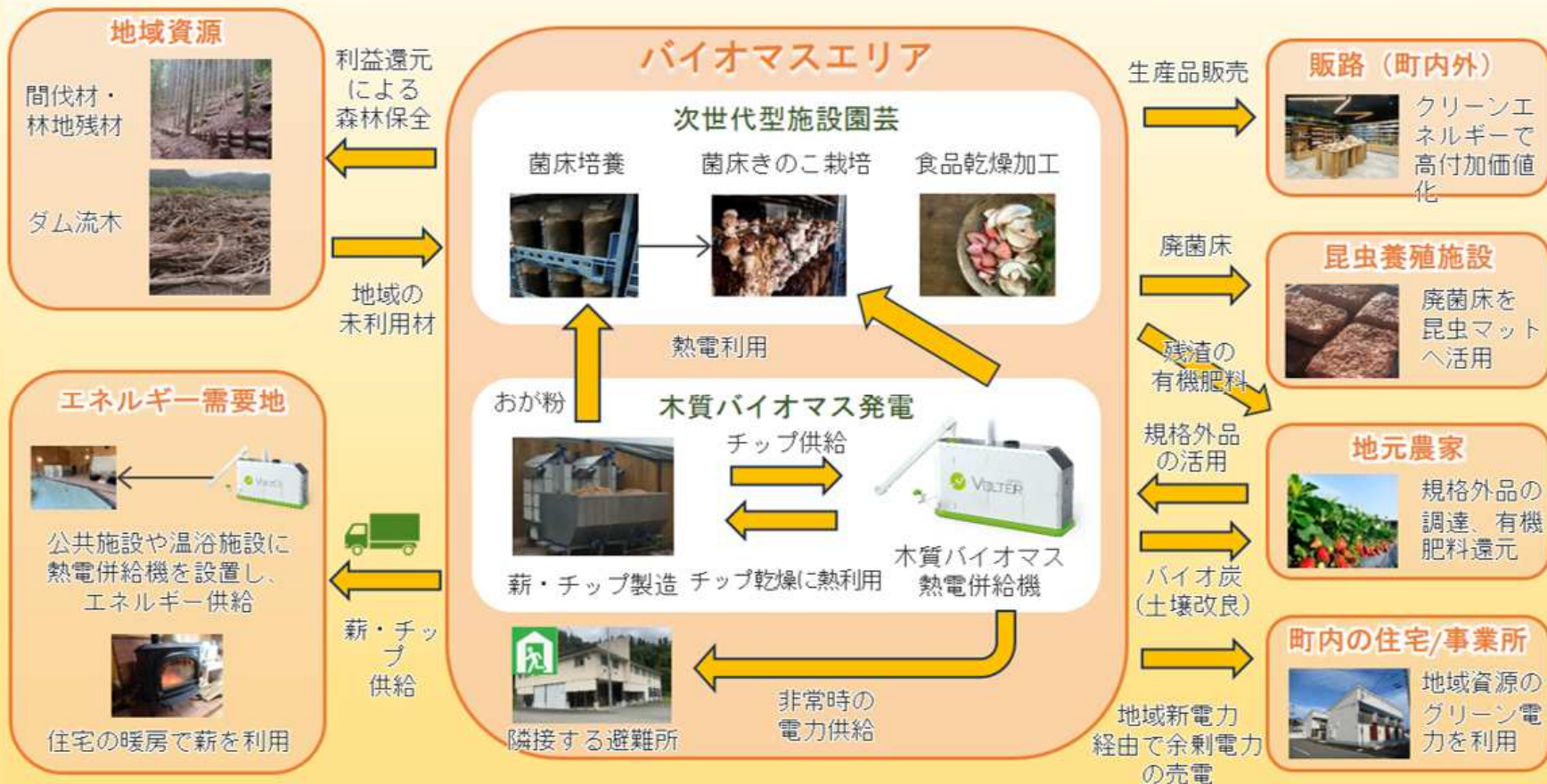
地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

全体像

バイオマス

雪活用と廃プラ

木質バイオマス事業



産業・雇用創出

地域脱炭素

林業活性化

レジリエンス向上

フードロス削減

- ・少子高齢化で8年後に人口4,000人割れの見込み
- ・6m超の積雪で冬の雇用減、灯油消費で負担増
- ・面積の9割を占める森林資源やダム流木の活用が未整備



取組

木質バイオマス×次世代型施設園芸事業により、地域資源を活用しながら通年の雇用創出、地域脱炭素等を実現

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

全体像

バイオマス

雪活用と廃プラ

雪活用



課題

豪雪

豊富な地域資源

雪室事業



豪雪サウナ



関係人口拡大

ツキノワ合同会社
・地ビール
金子農園
・花栽培

特産品の
高付加価値化



・月山朝日観光協会
・ワイルド・ジャーニー

富裕層・若年層
ターゲット
冬の稼ぐ観光

ありたい未来

克雪！
雪を有効活用したエコで活気ある地域

廃プラリユース

課題

利用可能な資源が廃棄されている…

再資源化



油化

事業可能性調査

・六洋電気株式会社
・西川町総合開発

資源回収

・道の駅寒河江
・西川小、中学校
・道の駅連携

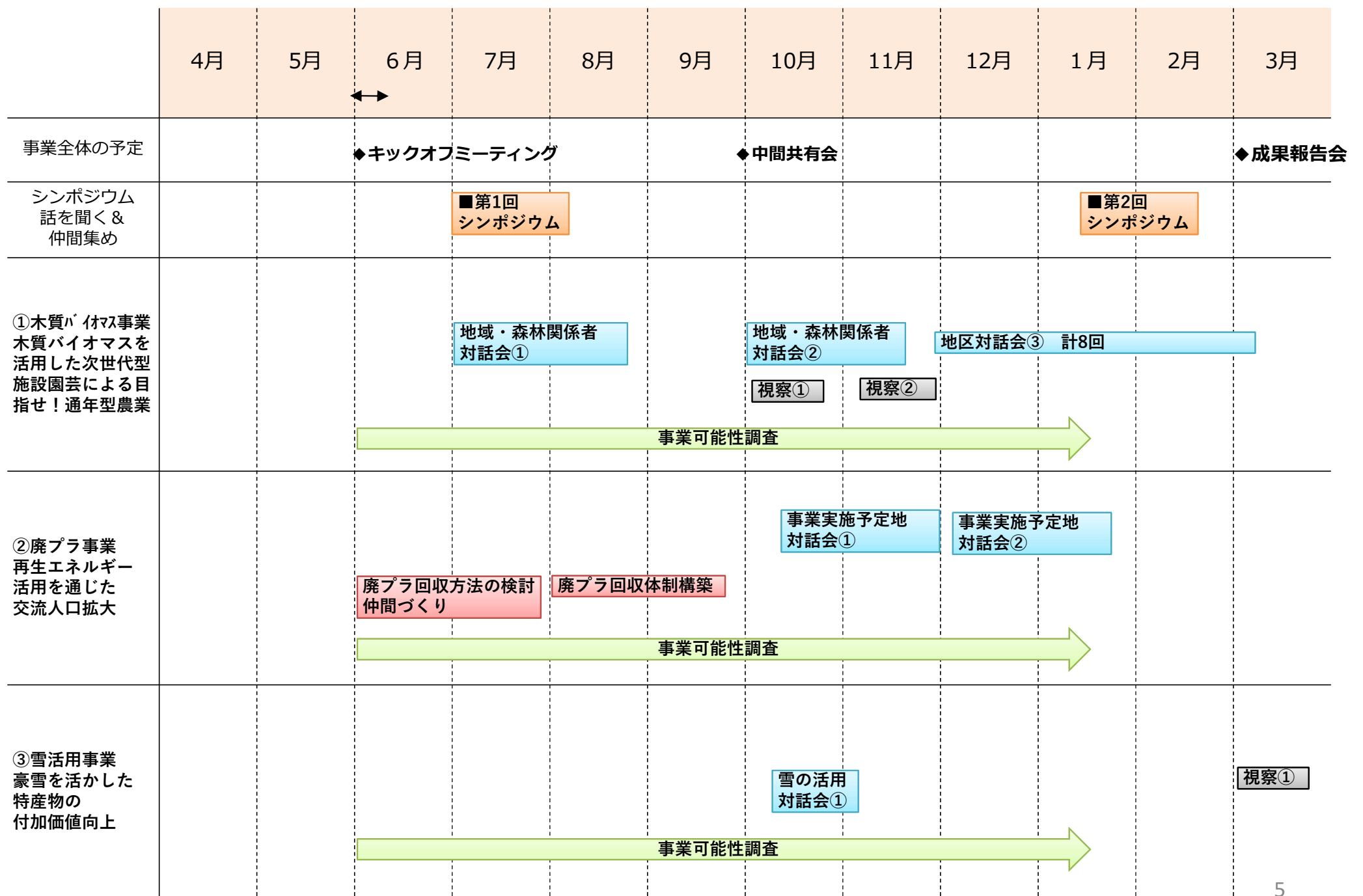


再生可能エネルギーの促進

ありたい未来

廃棄資源の有効活用による持続可能な観光
施設運営の実現及び交流人口の拡大

年間スケジュール



今年度チャレンジした主な取組内容

取組①「木質バイオマス事業」

【活動内容】

- ・仲間づくり
- ・地域課題の整理
- ・ステークホルダーの役割、関係性の確認
- ・地域の将来像の共有
- ・先進地視察

【成果や気づき】

・民間企業の知見や地域の林業体との対話により、森林資源の活用の新たな課題等が見えてきた。

【活動の様子（視察状況）】



取組②「廃プラ事業」

【活動内容】

- ・仲間づくり
- ・事業可能性調査
(廃プラ収集量調査)

【成果や気づき】

- ・協力してくれる人が多い。
- ・回収量がかなり必要になるため、その労力との費用対効果を十分に検討する必要がある。

【活動の様子（廃プラ回収量調査）】



取組③「雪活用事業」

【活動内容】

- ・仲間づくり
- ・先進地視察（予定）

【成果や気づき】

- ・地域課題でもあるが、どうにかしたいと思っている人も多い
- ・主体となって動いてくれる担い手を確保することができた。

【活動の様子（対話会状況）】



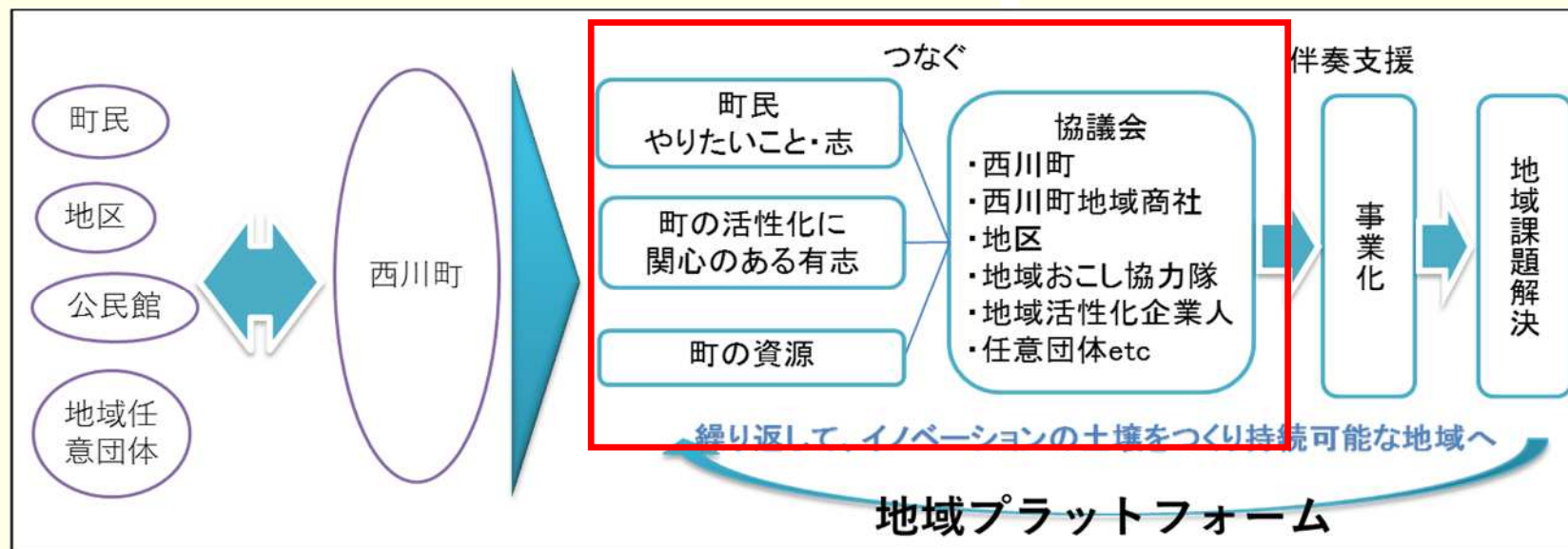
現状の地域プラットフォームと取組を通じての変化

【現状の地域プラットフォーム】

- 住民、民間企業、町がステークホルダーとなり事業化に向けて関係を築くことができている。（木質バイオマス事業）
- 町外を超えてステークホルダーを確保することができた（廃プラ事業）
- 町民との対話会により地域課題とやる気のある人材を発掘することができ、担い手や事務局となるような人材を見つけることができた（雪活用事業）

【地域プラットフォームの変化】

- 対話の機会が増え、町民や企業、町外の西川ファンからの声が聞こえてくるようになった。
- これまでなかった、町外企業や西川ファンとの交流の場が増え、イノベーションが起きる土壌が情勢されつつある。
- 地域内で積極的に対話や活動に関わってくれる人が見えてきた。



プラットフォーム形成のポイント

- 各事業とも他分野にまたがるため、かなり手広い活動となったことから様々なステークホルダーを仲間にする事ができた。
- 一方で、かなり手広い形となったため、廃プラ事業や雪活用事業は、一部深堀出来なかったところも出てきてしまった。
- 対話は、かなり多く回数をこなすことができ、新たな課題や担い手の確保などの成果があった。



取組を通しての成果と新たに見えてきた課題

《取組全体を通じた成果》

- ・各事業ごとに仲間づくりを進め、ステークホルダーを広げることができた。
- ・先進地視察に行き、対話会を繰り返すことで、地域の将来をより具体的にイメージすることができた。
- ・ヒアリングや数値データ等を元に地域の現状を深く掘り下げることができた。
- ・ありたい姿の実現のために必要な取組の整理ができた。

《課題など》

【木質バイオマス】

- ・ 地区住民との対話で事業に取り組むことは賛成だが、協力する部分がうまく進まなかった。視察等により具体的にイメージできるようにすることで、対話が進んだ。
- ・ 対話することで、新たに地域森林の課題（森林サイクルの滞り、運搬経費、届出対応煩雑化など）

【廃プラ事業】

- ・ 廃プラの回収量の確保と回収体制

【雪活用事業】

- ・ 次のステップ（特産品の選定など）を整理できたので、そこに向けたさらなる仲間づくりが必要

活動における今後の展望

- 今年度は、仲間づくりと地域ビジョンの作成、実施体制を整えることを中心に取り組んだことからある程度のステークホルダーを仲間にすることができた。
- 今後は、各事業とも事業化に向け、関係者間の調整や引き続きの可能性調査などに取り組んでいく。
- それぞれの事業化を進めるとともに、仲間になってくれたステークホルダーが事業内だけではなく、さまざまな形で交わる場を作り、次々と地域課題の解決に向けて事業化が繰り返されるような土壌を当地域に作っていく。